

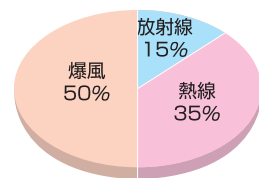
## ●長崎に投下された原子爆弾について●

原子爆弾は、核分裂性物質（プルトニウム等）が核分裂するときに発生するエネルギーを兵器として利用したもので、通常の爆薬に比べるとはるかに大きな破壊力をもっています。さらに、核分裂の際に発生するガンマ線や中性子線などの放射線は、長い期間にわたり人体に深刻な障害を与えます。

長崎に投下された原爆は、長さ3.25メートル、直径1.52メートル、重さ4.5トンあり、その形状からファットマン（ふとっちょ）と呼ばれていました。爆発の際には、高性能爆薬の21キロトン分に相当するエネルギーを放出しました。

エネルギーの内訳は、爆風が約50%、熱線が約35%、放射線が約15%で、これらが複雑にからみあって長崎の街に大きな被害を引き起こしました。

エネルギーの内訳



原爆搭載機ボックスカー



米軍機から撮影したきのこ雲（米軍撮影）

## ●原子爆弾による被害状況●

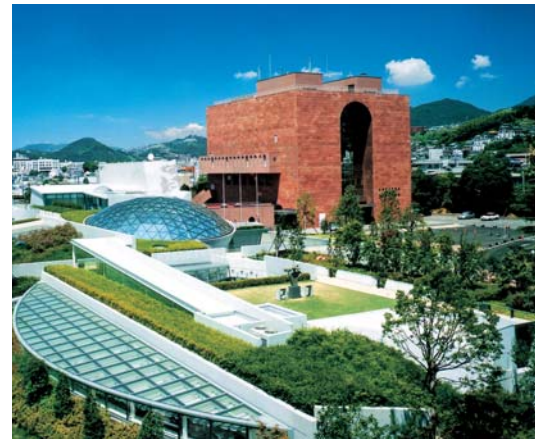
1945（昭和20）年8月9日	長崎市人口	約240,000人
原子爆弾による被害者数 （1945年12月末までの推定）	死者	73,884人
	負傷者	74,909人

（1950年／長崎市原爆資料保存委員会調査）



### 翌日の爆心地付近 （山端庸介氏撮影）

この付近の建物は完全に燃え尽きた。ローラーで押しつぶされたような瓦礫のなかに、黒焦げの焼死体が転がっていた。



## ●利用のご案内●

観覧料	区分	個人	団体 （15名以上）
	一般	200円	160円
	小・中・高校生	100円	80円

※小学生未満の方は無料です。

開館時間 ●8時30分～17時30分（17時までに  
ご入館下さい）  
ただし、5月～8月は、18時30分まで（18時までにご入館下さい）

休館日 ●12月29日～12月31日

駐車場 ●有料（バス12台、普通車71台）

## 交通のご案内



- JR長崎駅から
  - ・市内電車……赤迫行（系統番号1、または3）で浜口町下車徒歩5分
  - ・バス……滑石・時津・女の都方面で浜口町下車徒歩5分
- 長崎空港から
  - ・長崎空港リムジンバス……長崎駅前行き松山町下車徒歩約5分

R100 環境にやさしい再生紙を使用しています。

# 長崎原爆資料館



〒852-8117 長崎市平野町7番8号  
TEL095-844-1231 FAX095-846-5170  
E-mail genbaku@city.nagasaki.lg.jp  
URL <http://www.1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bomb/museum/index.html>

## はじめに

1945（昭和20）年8月9日午前11時2分、長崎に一発の原子爆弾が投下されました。長崎の街はほとんどが破壊され、多くの人々の生命が奪われました。かろうじて生き残った人々も、心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者がいまなお苦しんでいます。

長崎原爆資料館は、長崎市の原爆被爆50周年記念事業の一つとして、1996（平成8）年4月にそれまで被爆資料を展示していた長崎国際文化会館を建て替えて開館しました。

当館では、被爆資料や被爆の惨状を示す写真などの展示をはじめ、原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などのストーリー性のある展示を行っています。

## 館内施設のご案内

### 常設展示室（地下2階）

常設展示室では、大型被災資料の展示や被爆した浦上天堂の側壁の再現造型などにより、被爆直後の長崎の惨状を再現しています。また、遺品や被爆資料、被爆の惨状を示す写真、映像資料等を利用したわかりやすい展示を行っています。

### 企画展示室（地下2階）

常設展示を補完し、原爆や平和についての理解を深めてもらうため、年に数回企画展を開催しています。  
※時期により開催していないこともあります。

### ガイドレシーバーの貸出（地下2階観覧券売場）

常設展示や長崎原爆についての解説が聴ける日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語の音声ガイドを貸し出しています。（1台150円）

### 書籍売店（地下1階）

原爆や平和に関する図書などを販売しています。



書籍売店

### 原爆資料館ホール（地下1階）

平和学習、講演会、各種イベント等の会場として、有料で貸出を行っています。

### 平和学習室（地下1階）

被爆者による被爆体験講話などの平和学習を行っています。

### 図書室（1階）

開館時間●9時～17時（月曜日休み）

### いこいの広場（地下1階）

来館者のための休憩場所です。



いこいの広場

### その他

喫茶室があります。

## 周辺施設のご案内

長崎原爆資料館に隣接する施設として、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、長崎市歴史民俗資料館、長崎市平和会館があります。

# A 1945年8月9日

入口正面に被爆前の浦上地区の風景、右側に被爆前の長崎の街や市民の生活を示し、次に原爆投下時の“きのこ雲”の映像が映し出され、その対面に浦上地区を中心として長崎の街が一瞬にして破壊されたことを語る11時2分を指して止まった時計を展示しています。

## 「被爆前の長崎」

山里町一帯の遠望  
(米国防軍病理学研究所資料)  
中央に見える建物は被爆前の浦上天主堂。



## 「永遠の11時2分」

11時2分を指して止まった柱時計  
爆心地より約800mの山王神社近くの民家にあったもの。爆風で損傷し、時計の針は爆発の時刻11時2分を示している。



# C 核兵器のない世界を目指して

## 「核兵器の時代」

核兵器開発の歴史や戦後の国際情勢、世界の反核運動などを年表により、わかりやすく展示している。



## 「現代の核兵器」

長崎への原爆投下から現在までの間に、核弾頭を運ぶミサイルの命中精度は著しく改良され、核弾頭の威力も一方では巨大化しつつ、他方では戦場での実際の使いやすさを考えて小型化されていた。このコーナーでは核実験回数や現代の核兵器に関する情報を映像資料などで解説している。

# D ビデオルーム他

## 「ビデオルーム」

原爆記録映画の上映  
米国防軍爆撃調査団が撮影した原爆の被災記録を編集した映画「ながさき原爆の記録」や若い世代へ被爆体験を継承するため、被爆35周年事業で長崎市と長崎県と共同で制作したアニメーション「8月9日長崎」を上映している。

## 「Q&Aコーナー」

原爆・平和に関するQ&A  
初級編及び上級編併せて計50問の原爆・平和に関するクイズを用意している。



# B 原爆による被害の実相

原爆投下直後の長崎の街の惨状を再現し、原爆の破壊力や恐ろしさを伝えるコーナーです。

## 「原子野と化した長崎の街」

旧制環浦中学校の給水タンク  
脚の曲がったこの給水タンクは、爆心地から約800mの距離にあった旧制環浦中学校(現在の長崎西高等学校の場所)に立っていたもの。



## 「浦上天主堂の惨状」

ロザリオ  
原爆が投下されたとき、浦上天主堂の礼拝堂で告解のために集まっていた神父二人と信徒数十人は、倒壊した天主堂の下敷きとなって全員死亡した。後日、信徒が持っていたロザリオのうちわずかな数が収集されたが、大部分は四散してしまった。  
※告解(洗礼後に犯した罪を司祭を通して神に告白し、許しを請うこと)



## 「長崎原爆投下までの経過」

原爆が投下されるまでの経過の解説  
このコーナーでは、長崎に原爆が投下されるに至るまでの出来事を展示している。



長崎型原爆の実物大模型。長崎型原爆は周囲の火薬でプルトニウムを内側に濃縮して核分裂を起こす。

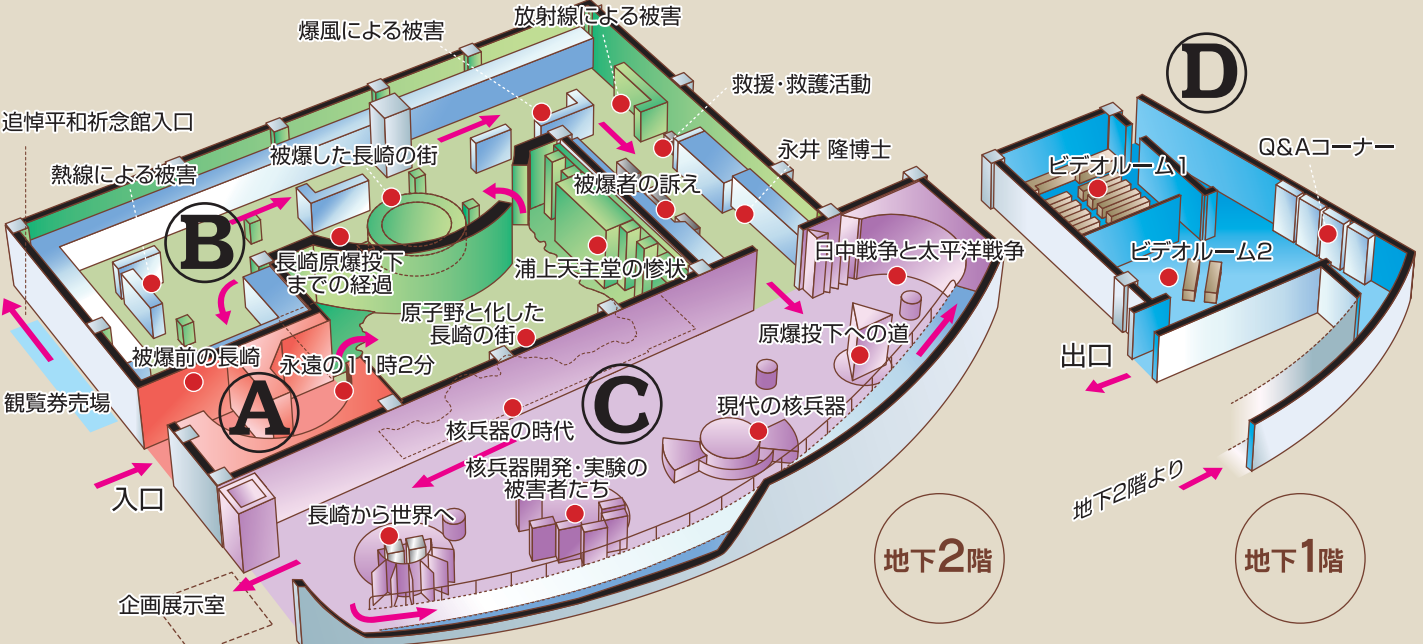
## 米軍機が投下したピラ

1945(昭和20)年に入ると米軍機による日本本土への爆撃が激化し、長崎市内にも各種のピラの投下が始まった。文面には原爆の威力、広島に投下した事実、市民への退避呼びかけ、戦争中止の勧告などが書かれている。



## 「被爆した長崎の街」

長崎地形模型  
天井からのモニターによって、模型上にも各種のピラの投下が始まった。文面には原爆の威力、広島に投下した事実、市民への退避呼びかけ、戦争中止の勧告などが書かれている。



## 「熱線による被害」

### 女子学生の弁当箱

爆心地より約700mの岩川町で被爆した堤郷子さん(当時14歳)の遺品。弁当箱の中の米飯はその後の火災で炭化している。副食入れの裏面に「2の3ツツミサトコ」の文字がある。



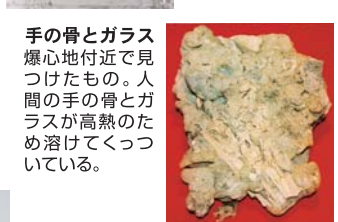
溶けた6本の瓶  
爆心地より約400mの商店跡から発見されたもの。高熱のため瓶の上部が溶けてくっついている。



## 板壁に残ったはしごと監視兵の影

(朝日新聞社提供 松本栄一氏撮影)

爆心地より南へ約4.4kmの要塞司令部。兵士が屋上から降りてきたとき熱線の直射を受けた。光が当たった部分は塗料のコーティングが剥げ、影の部分だけが黒く残った。



## 手の骨とガラス

爆心地付近で見つけたもの。人間の手の骨とガラスが高熱のため溶けてくっついている。



## 作業服と戦闘帽

爆心地より約1.2kmの三菱長崎製鋼所で被爆した作業員の作業服。熱線の直射を受けた部分が焼け焦げている。



## 頭がい骨の付着した鉄かぶと

爆心地付近で発見されたもの。内部に被爆者の頭がい骨の一部が付着している。



## 「永井 隆博士」



永井隆は、助教をつとめる長崎医科大学附属病院で被爆した。自らも重い傷を負ったその直後から、負傷者の救護や原爆被害の研究に献身的に取り組んだ。

## 「救援・救護活動」

特設救護病院となった新興国民学校  
(富重安雄氏撮影)



市内で最大の救護所となり、多数の被爆患者が収容された。当時はまだ知られていない原爆特有の症状による死亡者が続出した。

## 「被爆者の訴え」

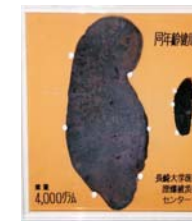
被爆者救援列車(寺井邦人氏画)



原爆救援列車を描いた絵画。当時機関士であった作者は、長崎本線肥前山崎駅で原爆投下を知り、救援列車を運転して爆心地近くの踏切まで乗り入れたときの状況を絵にしたもの。

## 「放射線による被害」

著明に腫大した脾臓



放射線の影響により著明に腫大した脾臓。右は同年齢健康者のもの。

## 「爆風による被害」

城山国民学校 (米国防軍病理学研究所資料)



爆心地より西へ約500m。鉄筋コンクリート三階建ての校舎は、被爆直後はかろうじて骨格をとどめていたが、爆風でもろくなっていたこともあり、その後の風雨などにより三階から崩れ落ちた。

## 一本柱になった山王神社の鳥居

(林重男氏撮影)

爆心地より南東へ約800m。右手石垣の影響が、爆心地側の柱は前方に倒れ、爆風の圧力を多少避けた片方のみ残って現在も建っている。



## 頭がい骨の付着した鉄かぶと

爆心地付近で発見されたもの。内部に被爆者の頭がい骨の一部が付着している。

